

座談会「中村哲先生のスピリットを継承する」記録

 座談グループ：ダラエ・ヌール



進行役：久保智之 九州大学人文科学研究院教授（言語学）・九州大学附属図書館長

参加者：福元満治 図書出版石風社 代表・ペシャワール会

白井賢一郎 KBC 九州朝日放送 解説委員長

山下隼人 ペシャワール会 PMS 支援室

中西幸大 福岡高校1年 ペシャワール班

野中諒 九州大学文学部2年・中村哲先生の想いを繋ぐ会/哲縁会

初見かおり 九州大学広報本部サイエンスコミュニケーター

オブザーバー：レイク沙羅 九州大学共創学部1年 哲縁会

座談会コーディネーター：當眞千賀子 九州大学人間環境学研究院教授（発達心理学）

記録：九州大学附属図書館

※ この記録に登場する参加者の所属等は、座談会が開催された2022年3月当時のものです。



久保 : さっきお名前だけ紹介があったので、ちょっとアイスブレイクというか、打ち解けるために、もう打ち解けてらっしゃる方もいるかもしれませんが、この中で「好きなもの」っていうのありましたね。私、そこしか書いてなかったような気がするけど。「大好きなもの、楽しみは?」、これをキーワードに、お一人ずつ簡単に自己紹介していただいて、それから、「ご自分にとっての中村哲先生」というような感じで、お話をそれぞれ聞かせて、分かち合いができればと思ってますが、いかがでしょうか。

《自己紹介、大好きなもの、楽しみは?》

久保 : とりあえず私から。私、山登りって書いたかな。中村先生も、一番最初にアフガニスタンと関わられたのは山登りだったと思いますが、私はそんな本格的なのじゃなくて、今週も月、火、水は山に行ったんですけど、朝5時に起きて、近くにある300メートルの山に登って、それから出勤という。結構寒かったですけど、この頃、ものすごくぬくくなって、そんな感じで、もうだいぶ年になったんですが、山登りで体をちゃんと健康に保とうというようなことをやっております。よろしくお願ひします。

一同 : よろしくお願ひします。

久保 : 他にも、山登りって書いてらした方、いらっしゃるような。

福元 : 山歩きです、私は。

久保 : 山歩きですか。じゃあ、お願ひします。福元さんですね。

福元 : 温泉付きの山歩きとNetflixというのが。

久保 : いいですね。

福元 : コロナでなかなか行けないんですけども、前は頻繁に九重の裾野をうろうろしてたんです。九重の麓の温泉宿に行っていました、年に5、6回ぐらいですが、コロナでなかなかそうもいかなくなりました。もう一つは、Netflixでドキュメンタリーを観ることと書いています。コロナになって、ちょっとでかいテレビを買いまして、それでNetflixとYouTubeを見始めました。映画も観ますが、ドキュメンタリーの質がなかなかいいんですね。それで、毎日1、2本は観ています。

隣にテレビ局の方がいらっしゃるんですけども、YouTubeっていうのはあらゆるジャンルのいわばアーカイブスで、70年代のニーナ・シモンのライブがあったり、浅川マキのライブがあるんですね。そういうものを観たり。ニュースも、オンタイムで見なくても、いつでも各社のニュースが観れる。

以前はよくDVDを借りていたんですが、今は家の中にレンタルビデオ屋があるようなもんです。Netflixの製作費はNHKの5倍ぐらいあるらしいので、これはメディアにとっては非常な脅威でしょうね。テレビ局も新聞社も、かなり危機的ではないでしょうか。



私らの世代が、あと10年ちょっとすると死に絶えていきますから、そうすると、新聞を読む世代は激減すると思います。紙の新聞は、今のままで、ほとんど壊滅的になるだろうと思います。私は出版社をやってますので、新聞広告を出したりもするんですが、広告の掲載料がかなり安くなったんですね。つまり、新聞は広告収入が以前の半分以下になっていると思います。全国紙も地方紙も、部数が劇的に減って夕刊がなくなった新聞社も多くあります。

紙の新聞というメディアがなくなっていくかもしれない。そうすると、「社会の木鐸」としての機能が果たせなくなっていく。実際、アメリカ辺りでは、紙の地域新聞がなくなったせいで、公務員の不正が増えたっていうことがあるんですね。

久保 : 私の世代では、もう新聞、取ってないっていう人間、だいぶいます。

福元 : そうでしょうね。

久保 : 皆さん、取ってらっしゃる。

初見 : 私は広報室で取ってるんですけど、広報室も今年までは、学生さんたちに新聞スタッフで切り抜きしていただいてたんですけど、来年から廃止になると。全部オンラインのほうになるみたい。多分、九大広報室も、紙はそろそろ終わります。

久保 : 学生さん、あんまり取ってないんじゃないですかね。

福元 : ほとんど取ってないのではないかと思います、学生さんは。

うち(石風社)はまだ4紙ぐらい取ってるんですね、そうすると、月曜日になると事務所には山のよう
に新聞があって、これを読むのが結構大変です。若い人たちが活字を読まなくなったって言われますが、そんなことはないだろうと思います。活字自体はかなり読んでると思う。

極論かもしれませんが、紙の新聞のニュース的機能っていうのはほとんどなくなってるんじゃない
かと思いますね。それと、記事が面白くないんですよ。私の偏見かもしれませんが、記者の主体性と身
体性が希薄になっている。だから面白くない。新聞を読むときにも、個性的で面白いエッセーだとか、
気の利いた時事解説みたいなものは読みますけれど、読むに値する内容が減ってるように感じます。

久保 : ありがとうございます。皆さんにいろいろしゃべってほしいので。

福元 : はい、どうぞ。

久保 : 白井さん、今、やり玉じゃないけど。

白井 : ジャーナリズムの危機については、今、福元さんがおっしゃったのが、私も実は、その中にいつ



つも、同じような認識を持っていて、テレビジャーナリズムについても表現において相当厳しいというか、時にお粗末というかね。本格的なルポルタージュは、恐らく相当減ってきているなっていうのを感じていて、それはジャーナリズム全体にとって非常にまずいなっていうふうに思っています。

確かに、新聞、読まなくなりました、テレビ、見なくなりましたっていうんですけども、今日もそういう話になれば確認したいんですけども、決してニュースを嫌いじゃない。見ないわけじゃないし、本格的な、多分、調査報道とかルポを、読まないわけじゃないと思うんですよ。あれば読むんだろうと思うし、見るんだろうと思うので、結局、それをどういうふうに伝達させるかというところが、今、われわれの課題みたいになっているんです。

けれど、さっき、福元さんがおっしゃったように、Netflix、すごかったり、相当な競争相手が、今、ネット上にあふれているので、旧来のクラシカルメディアは非常に困惑しているというか、それに乗っていくのにどうするかっていうところが、偽らざるところです。

久保 : なるほど。

白井 : 話を戻しますと、大好きなものということで、クラシック音楽の鑑賞と書きました。その中にも佐渡裕さんの名前が出たり、浅利慶太さんの名前が出ていますが、要するに、舞台芸術とかそういうのが、私好きなんです。

とりわけ、クラシックと書いたのは、ドイツの特派員として、ベルリン支局長をテレビ朝日系列で担当した時期、今から二十数年前、1998年の1月から、2001年のちょうど同時多発テロが始まるぐらいまで担当しまして、ベルリンっていうのは、ご存じのとおり、ベルリンフィルハーモニーをはじめ、宝物の山なんですね。その宝を前にして、それを掘らないわけにはいかんということで、行くようになったんですよ。

昔からクラシックは、嫌いじゃなかったけども、そんなに興味もなかったんですけど、行ったらものすごくはまってしまっていて、それから本当によく行くようになって。ベルリンは、ベルリンフィルがありながらも、世界の最高峰の芸術の都市なので、もちろん、隣からウィーンフィルも来ますし、アメリカからもわんさか来ますし、もちろん、日本の楽団も勝負しに来るし、いろいろなそういう環境下があったので、たっぷり聞いたと。

ベルリンフィルって、今、相当、普通に買うと高いんですよ。実は、地元にいると、ポディウム席っていうのがあるんですね。オーケストラピットのすぐ後ろにある。椅子が全然、大した椅子ではないんですけど、音も、ティンパニーや太鼓がうるさかったりするような、バランスからはちょっとかけ離れた部分なんですけど、そこですと、当日で800円ぐらいで見れるんですね。そういうトライもしながら、いろいろ、もちろん普通の席も行くんですけど、かなり見たというところで、クラシックが好きになったということです。

ヨーロッパの話をちょっとさせてもらおうと、今とちょうど真逆ですね。そこ（インタビューシート）にも書いていますけども、EU 拡大、EU サロンというところで、旧東欧系の国が次々に加盟をしていく。何に対して敵と設定するのかというのが明確じゃなくなっていく。ソビエトが崩壊してしばらくたって、ロシアの力が静かになっている時期だったんです。



そこで、いってみれば、調子に乗って EU サロンがどンドンでかくなっていったんですね。恐らく、その澱（おり）みたいなのが、30 年たまってるのが、今回のウクライナの一つのきっかけだろうというふうに、私は見てますけども、そういう、取りあえず冷戦が終わって、新たな拡大が行われるというところにいました。

久保 : ありがとうございます。じゃあ、山下さんをお願いしましょうか。

山下 : はい。

久保 : アイスブレイクのつもりだったんですが、結構まじめな話になってます。ちょっと短めに。

山下 : はい。ペシャワール会の山下と申します。よろしく申し上げます。今、ペシャワール会に入職して、4 月で丸 3 年なんですけども、好きなものは動物と書きました。もともと小さいときから動物が好きで、家でも犬を飼ってたりして、高校生ときは、獣医さんにでもなって動物園とかで働きたいなとか思っていたんですけども、なぜか、今 NGO で働いてます。以上です。

久保 : はい。向こうに、アフガニスタンに行ったりする機会も。

山下 : アフガニスタンは、2016 年頃を最後に、今は退職した先輩が 1 週間だけ行ったんです。もともと 1 カ月の渡航予定で、1 週間、アフガニスタンにいたところで、現地の責任者の方から、危ないから帰れというふうに言われて、帰って。それから今までずっと、ビザは日本からは出てないです。

久保 : そうなんですね。厳しいですね。

山下 : はい。なので、私も行ったことはございません。

久保 : 中西さん。

中西 : 福岡高校の中西と申します。今回、恐らく、会の中で最年少になると思うんですが、たくさん学べることだったり受け取れるものがあつたらいいと思ってます。趣味が、乃木坂って書いてて、がっつり趣味な感じで、ちょっと「やったな・・・」と思ってるんですけど、登山の話が出てると思うんですけど、高校で登山部に所属してて、登山が好きです。

久保 : どころ辺、行ってるんですか、山は。

中西 : 福岡の英彦山だったり。春に屋久島に行く予定だったんですけど、教育委員会の方針とかで、コロナ禍であんまり行ったら駄目ということで中止になったんです。いつか屋久島に行けたらいいな



とってます。

久保 : いいですね。このペシャワール班って、長いんですか歴史は。

中西 : もともと(福岡)高校のほうでペシャワール会を扱っていて、(渉外)委員会の生徒会活動に1回なったんですけど、専門的には扱ってなくて、他の仕事のついでにペシャワール(会)のことも扱うというやつなんです。ペシャワール会のことを調べて、それをやる組織っていうのを生徒会の中につくったのが今年度の夏で。まだ発足して1年足らずっていう感じなんですけど、中村さんの母校でもあるので、文化祭で発信していったり、そういうことをできたらいいなとってます。

久保 : 結構、人数いるんですか。

中西 : いや、まだ今5人ぐらいで少ないんですが、どんどん増やせていったらいいなとってます。

久保 : すごいですね、高校生。野中さん。

野中 : はい。九州大学の文学部の、今井先生と岡崎先生ご指導の西洋史学研究室のほうで、最近は、第1次世界大戦と第2次世界大戦の戦間期におけるアルザスでの自治主義者たちが、民族主義者と言われることもあるんですけど、その人たちの葛藤とか経験について研究できたらいいなと思いつつ、卒論の準備に入っております。

趣味が、研究室に、昼前にいると、この図書館の入り口のほうにあった童夢カフェのパンの方が訪問販売に来てくださってるので、それを楽しみにしてるのと、あと、実家に猫がいるので、実家に帰ったときは、猫とよく遊んでいます。

久保 : 童夢カフェのパンっておいしいんですか。

野中 : カレーパンが本当に絶品で。

昼前になると、もしかしたら匂ってくるかもしれないんですけど、本当におなかですく感じです。よろしくをお願いします。

久保 : アルザスってあれですよ、ドーデの『最後の授業』ってありますね、あの舞台というか。

野中 : 最近のウクライナ情勢においても(話題に上る)、アイデンティティー問題で最初は気になっていたんですけど、自分たちがドイツ人なのかフランス人なのか、それとも、いや自分たちはアルザス人だって言ってる人もいて、すごい地域だなと思って、興味が出て来ます。頑張りたいです。

初見 : はい。九州大学で、サイエンスコミュニケーターという仕事をしています、初見と申します。



標高 700～1000 メートル級の長野県で育ったので、福岡の人が山って言うと、どれが山なんだ？と。すみません、丘にしか見えないんですけど、皆さん、山と呼ばれてて、すごいすてきだなって思うんですよ。それでも、九州が大好きで、九州から出る気持ちは全くないんですけど。

好きなものはスリランカのカレーなんですけど、研究の関係で、文化人類学の研究で長い間スリランカと関わっていたので、スリランカカレーと書かせていただきました。今日は、多分、年代的に真ん中辺りに位置する人間として、哲先生の世代と、皆さんの若い方たちの間で、自分が何をしてくべきか、何ができるのかっていうのを、真剣に考えてるんですけど、それについて感触が得られたらなと思っております。よろしくお願いいたします。

久保 : ありがとうございます。

レイク : 本日は来れるか分からなかったのですが、オブザーバー参加で、インタビューシートは書いていないのですが、レイク沙羅と申します。九州大学の、次、2年生です。今、1年生の終わりです。

好きなものは、読書が好きで、私も周りを見て、文字を目で追うこと自体に苦勞してる人もよく見るんですけど、その中では、比較的文字を目で追うっていうのが苦じゃないので、いろんな文字媒体の情報を取ることに抵抗がないので、うれしいというか、本や文字を楽しく読めるっていうことのありがたさに、最近、気付きました。

爬虫類が苦手って(他の方が)書いてあったんですけど、逆に、爬虫類が好き。あと、好きなものは、私もクラシック音楽が好きで、いつか生の演奏を聞いてみたいと思っています。そういう感じです。本日はよろしくお願いいたします。

久保 : どうもありがとうございます。じゃあ、一通り紹介が終わったと思いますので。

あまり方向性とかは決めないというのが今日の方針というふうに、さっき言っていましたけども、皆さん、ご自分にとっての中村哲先生とか、どういう視点でも結構ですので、中村先生とのつながりみたいなのを話をさせていただいて、それで分かち合いがみんなできれば、第1回としては十分かなという気がしておりますが、いかがでしょうか。どなたからでも。

初見 : 個人的には福元さんに、すみません、少しお話ししていただきたいんですけど、多分、一番ご存じな方で。

福元 : かなり長い話に。

初見 : じゃあ、途中で久保先生が切られるので。

久保 : いやいや。



《中村先生との出会い：出版社と著者という関係で終わらないだろうなという予感》

福元：私が関わりはじめたのが87年頃で、会自体が発足したのが83年なんです。84年から中村さんはペシャワールに行かれておりまして、私は最初の頃、中村先生のことは新聞では知ってたんですね。途上国で、貧しい国の人を診療する奇特なお医者さんがいると、そういう美しい話は、自分には縁がないと思ったんですね。正直、そういう話は苦手だと思っておりました。

私はここで最高齢だと思うんですけど、数の多い一番うっとうしい世代でして、全共闘世代とか団塊の世代とか言われてまして、1クラス五十何人、学年が十数クラスあるような世代です。ちょうど戦後すぐ、うちの父親が満州から帰ってきて、復員してきた男たちの勢い余ってできた子どもたちなんですね。その後大学の騒動も経験をしたしまして、水俣病事件にも関わったものですから、一般的な市民運動というようなものに対して、私、あまり気が乗らなかったんです。

そういう中であって、たまたま1987年頃、ちょうどバブルの最中なんですけれども、中村さんの連載エッセイを西日本新聞で読みまして、それは『ふるさと』というタイトルのもので、アフガンの難民でハンセン病の少年の話だったんです。（*注9）中村医師が回診のときに、その少年に、「君はきょうも生きてるかい」というふう尋ねるんです。そうすると、その少年が暗い顔をしたまま、「僕は生きてるけど、僕の命は完全ではないんです」というようなことを訴えるわけです。中村先生がハッとして2人でちょっと問答をする。中村さんは、なんとかしてこの少年に希望を与えなきゃいけない、というふうに思う。と、そういうふうなくだりがありまして、それを読んでいたときに、久しぶりに、自分のさめた気持ちみたいなものに、熱い血が巡ってくるような感覚を覚えたんです。

私は出版社を1981年に始めておりまして、それを読んで、この人の本を出したいと思った。ちょっとのぼせ上がって、「他の出版社には出させないぞ」というぐらい頭に血が上ったわけです。それで、ペシャワール会に出掛けていきまして、取りあえず、1年間は黙って手伝いをしようということで、会員への礼状を書いたりすることをやっておりました。中村さんに会って、本を出したいということをして、「分かった、いいよ」という話で、それでできたのが『ペシャワールにて』（1989.3、石風社）という、一番最初の本なんですね。

普通、著者と出版社の関係ってというのは、本が出てしまえばそれで終わってしまうんですね。普通の編集者ってというのは、著者と編集者という「矩（のり）を踰（こ）え」ないんです。でも、私はそのときに、「この人の本を出すと、出版社と著者という関係で終わらないだろうな」という、そういう予感がしたんです。

結果的に、現地に20回ぐらい行くことになりました。そして、広報担当の責任になって、2年、3年前まではペシャワール会の事務局長をやっていました。2000年までは、ペシャワール会には専従者が一人もおりませんでしたので、私の事務所が一時期、分室という形で外からの連絡を受けるということ

*注9：地の果てから(14) <ふるさと>(上)いつかは父が迎えに来る（1987-10-02、西日本新聞朝刊）

<https://www.nishinippon.co.jp/item/n/613397/>

『地の果てから：パキスタン北西辺境の人々』は、1987年9～10月に西日本新聞夕刊に掲載された連載。

ペシャワール会報14（1987.12）<http://hdl.handle.net/2324/4362866>



もやっていたわけです。

それから、中村さん関連の本、主要図書の6冊を含めて全部で10冊ぐらい出しました。

それで、私の役割は、たまたま出版社をやったということもありまして、マスコミに知り合いもあったものですから、先生の著作を出すとともに広報活動を整えたわけです。会報を定期的に出すとか記者会見したりとかですね。

そのことによって、会の発足時は、「哲っちゃんがやるから、応援しよう」という、同級生や教会の仲間という友人や知人の同好会的感覚だったものが、中村医師の事業そのものに対する関心とか共感によって、会の性格が事業中心に変わっていく、そういう広報的な役割はあったのではないかと思います。

それと、これは後で気付いたのですが、私は中村さんに嫉妬したんですね。中村さんのハンセン病の患者やアフガン難民に対する〈関係の深さ〉に嫉妬したことに気づきました。

《等身大の、人間くさい中村先生、NGO ペシャワール会の努力》

久保 : 福元さん、ここに、『あまり理想化せずに、等身大の先生が成した本当にすごい実像を伝えたい』というふうに書いてらっしゃいますけど。

福元 : 中村医師は、聖人であるとか偉人であると言われることがありますが、ある意味では非常に人間くさい人で。常に現場で判断する人ですから、例えば、朝言ったことと夕方言うことが違うっていうこともたまにあったんですね。現場に即して判断を変えるわけです。

當眞 : (座談の時間延長のアナウンス) Enjoy yourself、どうぞ楽しんでください。

福元 : じゃあ、できるだけ早めに切り上げます。中村医師は『花と龍』(火野葦平著)の主人公玉井金五郎の孫でして、そういう意味では、玉井家の血脈みたいなもの、血筋を引いている。それから、火野葦平というのは、ご存じのように、『糞尿譚』という作品で芥川賞を取った人で、『麦と兵隊』、『花と兵隊』、『土と兵隊』の3部作で、戦前は国民的ベストセラー作家だったんです。戦後は一転してGHQによって公職追放されたりしましたけれども、そういう人が伯父さんです。

中村先生は、ご存じのように、非常に文章が巧みな人で、巧みっていうよりは、読んでいただくと分かると思うんですが、きわめて明快な文章で、明快なうえに非常に思索的な文章なんですね。そして、物事を単線的に見るのではなくて、かなり深く、複合的に見てる人ですね。それに戦略的で構想力のある人でした。

だから、若松の沖仲仕の元締めだったおじいさんのある種の義侠心みたいなものと、伯父さんの持っている文章力みたいなものを兼ね備えている。ペシャワール会やその現地事業体であるPMS(平和医療団・日本)が、広がりを持つてるといえるのは、現地事業に実体があり実質があるっていうのが一番なんですけれども、それを中村さんがかなりクリアに、そして、ディープに、文章によって伝えていくという、そういう力があつたっていうことが大きいのではないかというふうには思います。



ついでに申し上げますと、NGOの存続に必要な点というのは3つあると思っています。一つは、まず、「事業に実体があること」ですね。2つ目は、「それをきちんと、明暗を含めて伝える」と、それから、3つめが、「会計、財政がきちんとしてる」ということですね。実際に九州で二つの大きいNGOがあったんですけど、これが両方ともつぶれてしまった。要するに、実態を粉飾してきれい事しか報告しなかった。そしてお金を流用してしまったということです。NGOに関わらず、組織っていうのはみんな同じだとは思いますが、往々にして、実態を粉飾するNGOっていうのがある。きれい事だけ言って、そして、会計が不明瞭、ということがあるんですね。

だから、ペシャワール会の場合は、まず事業に実体がある、ということですね。具体的に医療活動を行ったり、井戸を掘ったり用水路を造ったりする。その中で、きれい事だけではなくて、そこで起こったいろんな困難な問題についても報告する、ということがある。それから、会計は税理士さんがきちんとやっていますし、弁護士もちゃんと承認する。しかも、できるだけ現場に多くのお金を使う。

ある程度、全てとは言いませんけれども、大きい組織では、国連を含めて、どうしても組織維持のほうにお金を使いがちである、現場ではなくて。例えば、水を送るのに、送る手段であるポンプとかホースの維持費のほうが高くて、実際の水はちょろちょろとしか出ないとか、そういうふうなことが往々にしてあります。けれども、ペシャワール会は、極力そういうことのないように、現場に、実際のお金を含めて、届くようにしてきたっていうようなことがあると思います。

それから、中村さんは寡黙な人に見えるんですけども、移動中はよくしゃべる人です。いろんなことを話をしてくれまして、いろんな話を聞きました。話せないこともいっぱいあるんですけども。

一つだけ面白い話をしますと、中村さんは英語も、それから、現地のウルドゥー語も、パシュトゥー語もしゃべった。私、一緒に移動してるときに、ダラエ・ピーチで同じ部屋で泊ってましたら、突然、夜、中村さんが何か言いましたんですね。どうしたんだろうと思ったら、寝言を言ってました。最初に日本語で言って、次に英語で言って、それからパシュトゥー語の3カ国語で寝言を言っておりました。つまり頭の中で24時間、現地のことを、考えてるような人でした。

それからよく言われるので皆さんご存じだと思いますけども、「先生の後継者はどうするんですか」と尋ねたら、中村さんは、「自分の後継者は用水路である」というふうに答えたっていう話は、ご存知だと思います。用水路が必要である限り、現地の人々がそれを維持するという意味だと思います。

もう一つ、「先生、キャプテンがいなくなったら、船は航行不能になるじゃないですか」と私が尋ねたんですね。そしたら、中村さんが何て答えたかという、「しばらくは、慣性で進む」って言ったんです。要するに、自分がやってきた方向に今までの推力で事業は進んでゆくということですね。

だから、今、中村先生が亡くなって3年になりますが、うち（ペシャワール会）の会長が、「中村先生のやろうとしていたことを全て実現する」ということを言ってるわけで、現地も含めてそうですけれども、中村さんという一つのキャプテンが描いたプラン、蓄えたエネルギーを含めた「推力」と、ある種の「慣性」でもって事業は進んでいる、というふうに思います。あとは、いかに現地が自立して自力で進んでいくかということだろうと思います。

いろいろあるんですけど、長い話ですみません。

久保 : いえ、ありがとうございます。今おっしゃった、現地の言葉で寝言を言うところ、私、言語学者な



ので、言葉の話があるとぴんと反応するんですけど。中国の新疆ウイグル自治区って、今、時々話題になりますけども、強制労働とか、どこまで実態が正しく伝えられてるかっていうのは、僕は疑問に思ってますけど、確かに、強制労働的なものもあるだろうけれども、かなり実態とは違うんじゃないかという気もしています。

少数民族の中でも一番少数民族を、私、調べていて、そういう人たちが、社会の構造が一番よく見えるんじゃないかというふうに思うんですね。私、シベ族っていう少数民族、調べてますけど、四つぐらい、言葉をしゃべれるんですね。中華人民共和国ですから、中国語はもちろんしゃべれますし、それから、自分の民族のシベ語もしゃべれる。でも、周りにいる、もっと自分より数の大きい、勢力のあるウイグル語もしゃべれる。それから、カザフ語もしゃべれる。四つしゃべれるっていうのがごく普通で、ちょっと、はたから見ると、すごい言語の天才じゃないかとか言う人もいるんですけど、実は、そうじゃなくて、それができないと暮らしていけない。だから全部できる。

反対に、じゃあ、漢民族はどうかというと、漢民族の悪口を言うわけじゃないですけど、漢語しかしゃべれない人が大多数なので、そういう少数民族の中になかなか入っていかないし、いけないというような事情がありますね。

だから、言葉っていうのはものすごく大事で、中村先生が、現地で使われてる言葉を大切になさったっていうのは、やっぱり、すごいなというふうに。もちろん、ものすごく苦労して習得なさったに違いないと思うんですけども、それは本当に、世界を見る窓が増えると思いますね。

《伝わりにくい現地の現状》

福元 : それに関連するんですけども、ああいう国では、外部からの援助者が現地で雇ういわば現地のコーディネーターのほとんどは、英語が流ちょうな人たちです。中村さんはそういう人たちに信を置いてなかったと思います。

英語がしゃべれる知識層にコーディネートをしてもらおうと、外部、特に先進国の人間たちの期待するような形でのアレンジをしたり、コーディネートをするわけですね。そうすると、その世界の表層しか見えないというか、その世界のいわゆる基底部っていいですか、庶民（農民）の生活に届かないというふうなことがあります。

NGO が現地で信用されなかったっていうのは、意外と知られていません。現地の大統領も言ったんですけども、「自分たちに援助する場合には、NGO を通さないでくれ、NGO はビジネスだから」という言い方をしたわけですね。

日本では、NGO は全て善なるものであるというふうに思われてるわけですけども、実はそれが現地のニーズに合っていないということがいっぱいあります。私たちは、2001年の9.11の後、カブールに5カ所の臨時診療所を持っていたんですけども、最初、宿舎の家賃が250ドルだったのが、タリバン政権が崩壊して、世界中から援助団体が入ってくる、それから、メディアが入ってくる、国連が入ってくると一挙に上がりまして、3000ドルになったんですね、250ドルが。マンハッタンより家賃が高いつて言われたんですよ。

結局、そういう援助団体が入ってくることによって、物価が急激に上がっていく。そうすると、そこ



にいる貧しい人たちがさらに貧しくなっていく、というふうな。だから、外国人は来ないでくれ、というような感じがありました。要するに、現地の感覚とずれてしまっている、といいますか、結局、そこで仲介する、コーディネートする人たちが、どうしても知識層、富裕層である、ということがある。

今日、うち（ペシャワール会）の会長が、「現地の治安は非常にいい」というふうに言っても、なかなか、それ、信じられないと思うんですけども、それはどういうことかという、結局、あのとき（2021年8月の政変時）に空港に殺到した人たちは、欧米や旧アフガン政府と関係のある知識層、富裕層の人が多いわけですね。あのときに空港だけにスポットが当たってアフガン中が大混乱しているように報道されましたが、カブールのバザールは、概ね平穏であったということです。

今、一番問題なのは、アメリカが経済封鎖してるってことがあります。アフガン人の1兆円ぐらいのなけなしのお金を全部押さえておいて、その半分を9.11の被害者の補償に充てるみたいなことを言ってるわけですね。

それは全く理屈に合わない話で。そもそも、9.11のときの実行犯っていうのは19人いますけれども、あの中には1人のアフガン人もいないわけです。15人がサウジアラビアの青年たちで、あと、アラブ系の青年ですから。そもそも、タリバンとアルカイダっていうのは基本的な性格が違いまして、アルカイダっていうのは、ウサマがリーダーであるとすれば、19人全員が大学を出てるんですね。高学歴です。サウジがああいう形の王政ですので、あそこから排除された人たちで、言ってしまうと根無し草なんですね。それで、彼らは国境を超えたインターナショナルなテロリストになった。

タリバンというのは、どちらかっていうと、マドラサ（イスラム神学校）を出た中等教育程度の人たちで、農民の土着のメンタリティーを持った人たちなんです。だから、言ってしまうと、ナショナリスト、郷土防衛隊なわけです。だから、彼らは国境を越えない。

久保：途中で腰を折って申し訳ないですけど、先ほど、会長さんがおっしゃった、「治安は大変良くなっています」という見方っていうのは、われわれ、普通の日本人は、「ええっ？」というふうに思うと思うんですけど、そこは、富裕層とかと密接に結び付いたマスコミの情報をわれわれが送られていることによって、誤解してる部分、正しい姿が見えてない部分があるってということですか。

福元：そうですね、要するに、国際報道は欧米の視線でやっていますから、われわれがそう言ってもなかなか信じられないところがあると思います。けれども、現地にも国連の関係で行った上智大学の東大教授がレポートしていましたが、現地の友人たちに連絡をしたら、『ガニ政権が崩壊してから「治安が劇的によくなった」』（*注10）と。そして、初めて警護を付けずに、アフガン国内を移動できるようになったというようなことを報告してるんですね。

それまでの、アメリカ軍とアフガン政府軍に対するタリバンの戦闘が終わったわけですので、ISが時々テロをやってますけれども、以前より治安が良くなっている、というのは事実だと思います。ただ、経済封鎖されてお金が動かないものですから、貧困が深まっている。もともと貧しい国ですから、

*注10：西日本新聞 2021年10月10日朝刊に掲載された、上智大学東大教授の共同通信への寄稿「アフガン人の生存権守れ」。西日本新聞の他にも全国の地方紙に掲載。



子どもの売り買いをしたり、幼い女の子を嫁に出すとかいうことは、タリバン以前から行われてきたことです。さらに旱魃がひどくて、飢餓状態がひどくなっている。国連機関などでも、今、アフガニスタンの人口 3500 万ぐらいだと思いますけれど、2000 万人以上が飢餓に直面してると言ってますね。特に子どもたちの餓死の可能性が高まっている。

久保 : 実態がなかなか見えないっていうのは、いかがですか、文化人類学の(観点から)。

初見 : 私も、お話、聞いてて、よく分かるんです。結局、スリランカも一緒なんですけど、やはり、海外からのいろんな力が入ってきて。一番極端な考えで現地の人たちを扇動しやすいのは、彼らを極限状態に置くことなので、飢餓状態がどんどん悪化すればするほど、タリバンの中でも、またいろんな意見が出てきたり、人々が受け入れるタリバンの考えの中でも、また差が出てきたり、結局、そういうふうになっていって。上の人たちが狙ってるような、ファンダメンタリスト的な極端な話になっていくんだろうなっていうふうに、お話、聞いていて思いました。

スリランカも似たような状況があって、国土防衛軍がゲリラ軍だったかっていうと、そうではなくて、むしろ、スリランカ政府、スリランカも内戦があったんですけど、スリランカ政府軍もゲリラ軍も、どちらかという貧しい、仕事のない若者たちを吸収する先であって。両方とも、貧しい若者たちが、共産主義を抱えて国っていうものに反対していく運動が広がってた中で、そういう人たちを引き込んで、それでも来ない人たちは、政府軍とゲリラ軍を使って皆殺しにするみたいな、そういう状況になったので。

スリランカの場合は、ゲリラ軍は必ずしもタリバンとは重ならないと思うんですけども、でもやっぱり外部の力が強いんですね。共産主義とか、そういう貧しい人たち、若者がどう動くかをすごく恐れる。権力者側がいろんなことをしますよね。

《等身大の中村先生の姿を、現在の現地事業を、自分たちの思いをどう伝えるか》

久保 : 失礼ですが。若い方にも少し発言というか、お話をしていただきませんか。

いかがですか、中西さんとか。

中西 : 中村さんの人間性みたいな、面白みというか。

久保 : 今、おっしゃってた？

中西 : すごくよかったなと思いました。より多くの人に知ってもらいたいな面では、そういうところから始まり、というか、取っ掛かっていくというのも親しみやすいというか。

久保 : 福元さんが言った、「理想化しない」ということね。



中西　：すごい共感しました。

福元　：中村さんは山歩きが好きで、福岡高校のときに、修学旅行のエピソードです。修学旅行のために、貯めてるお金があったので、彼はそのときに、修学旅行に行かずに、そのお金を先生に出してもらって、1人で九州の山に行った。みんなは修学旅行に行くのに、本人は山登りをやっています。とにかく「体調が悪いから修学旅行に行きません」って言って、それで、山登りに行ったわけです。そのときの（高校の）先生もなかなか分かる人で、「そうか、保養に行くのか」と言ったそうです。

中村先生は子どもの時から昆虫少年です。ペシャワールにハンセン病の診療に行くきっかけも蝶への関心からだと書いています。パキスタンとアフガニスタンの国境地帯にティリチミールっていう7000メートル級の山があります。その山の登山隊付のドクターとしてついていった。モンシロチョウの原種を見たかったからです。ところが、そこでは入山条件として、医師は村人の診療を拒否できないっていうのがあるんですね。病院もない医師もない村の人たちが来るけれども、ちゃんとした薬は渡せない。仁丹とかビタミン剤でごまかしていくしかない。そこに、重症化した結核の青年を連れた老人がやってきた。その人に、「かなり重症だから、麓の病院で診てもらいなさい」と先生が言った。ところが、その老人が、「いや、その麓の病院で診てもらうだけのお金があるようだったら、先生の所には来ない」と言ったんですね。それで登山の楽しみは消えて、世の不条理を突きつけられた。それが中村さんはずっと引っかかっている。その後で日本キリスト教海外医療協力会（JOCs）からの派遣依頼があったときに、ペシャワールにハンセン病の診療に行くというふうなことになった。最初から高い志があったわけではない、きっかけは蝶々だと書いています。

中村さんは、クリスチャンです。中学がミッション系の西南学院なんですけれども、そのときにキリスト教に…

久保　：そのときに受洗なされたんですかね。

福元　：そうですね。多分、内面的な、「自分とは何者であるか」ということを深く考える少年だったのではないのでしょうか。お父さんが、戦前、社会運動みたいなことをされた人で、中村勉っていう人ですけども、そのお父さんの影響もあって、子どものときから論語の素読をやってたって言ってましたから。私と年一つしか違わないんですけども、感覚としては明治のメンタリティーを持った人、日本人のちょっと古風な、伝統的な美質を持った人です。ある新聞のインタビューを受けたときに、最後に、「憲法9条と天皇がいて日本だ」と言ったんですね。そうしましたら、記者が「天皇」の所を削ってくれて言ったんですよ。そしたら、中村さんは、それを削るんだったら、全部ボツにしてくれて言いましたから。だから、伝統的で古風な面と、リベラルという両面がある。

久保　：西南学院は中学校からですよ。

福元　：そうです。



久保 : それは、地元の普通の公立中学に行かずにってというのは。

福元 : どうだったんでしょうね。成績が良かったんでしょうけれども、最初から、クリスチャンの学校だからってということではなかったと思うんです。

久保 : そうなんですか。

福元 : はい。1時間以上かけて電車で通ってた。幼いときは若松で育って。あとは、ちょっと外れのほうです、西のほうの。そこから通ってたんですけども。

担当職員 : そのとき、古賀のほうにいらっしゃったんですか。

福元 : 古賀です。そうです、小学校は古賀西小学校です。

久保 : 今の古賀市ですね。

福元 : はい。古賀から西南学院中学ですね。

久保 : だいぶありますね。大変ですね。

福元 : そうですね、かなりの。

久保 : JRで行って。

レイク : 質問してもいいですか。

久保 : どうぞ。

レイク : 個人的な問題関心によるんですけど、私は環境問題にすごい環境問題に結構問題意識を持っています。インタビューシートの中で、岡本さんがちょうど引用されてるんですけど、中村哲先生も、最後は環境問題の影響というか、そういうものと闘ったというふうに思っています。

話の中で、それこそ、学生運動が盛んな時代、そういうのに抵抗を示されていたとか、あと、中村先生自身も、学生運動とかを少し経験された後、ぱたっとやめるといふか、何といふか、急におとなしくなるというか、そういうこともあったと。

私にとって、今、環境問題で、具体的に行動していることもあって、そういうのを「どう伝えていけばいいのか」といふか、「伝え方」といふことに関心があります。

中村先生に会ったりすると、お考えといふか、はっきりと分かりやすいメッセージを言い過ぎるの



も、過激じゃないですけど、伝わりづらいとも思って、ただ伝わるように、どうやって伝えていけばいいのかな、というふうに疑問に思っています。思いが強過ぎて、例えば、学生団体とかで大きくなり過ぎると、抵抗感を示す人もいる、というのも分かりますし。実は、この後、天神に街頭演説みたいなのに行くんですけど、そういうのをしても、あまり通りすがりの人は話に耳を傾けてくれないとかで、すごい大きなことをし過ぎても伝わりづらいっていうのも、聞く側として感じることもあるので、どの辺でバランスを取っていったらいいんだろう、ということも、もし何かお考えがあれば伺いたいです。

福元 : 非常に難しいですね。難しいってというのは、正しい方法ってというのが、これがいいっていう方法はなかなかなくて、例えば、中村さんは、いわゆる平和構築ということのスローガンにして、アフガニスタンで事業をやってきたわけではないんですよ。

早魘が起こったので井戸を掘り農業用水路を造る。そうすると、どういうふうなことが起こるかという、用水路を造ることそれ自体が一つの公共事業になるわけですね。アフガンってというのは、もともと8割が農民なわけですよ。それが、干ばつと戦乱によって、難民にならざるを得ない。あるいは傭兵にならざるを得ない。アメリカとか、地元の軍閥であるとか、あるいはタリバンであるとかの兵士として雇われる。

ところが、用水路を造る過程で、そこに雇用が発生するわけですね。そうすると、難民であるとか、雇われ兵になってた人たちが、まず、用水路事業で食っていける。用水路が出来上がると、農地によみがえっていく。農地によみがえることによって、その人たちが帰農して生活できる。そうすると、治安が確実に安定してくるんですよ。すると、自然に学校ができたり、モスクができたりしていった地域が安定していくということがある。

當眞 : (座談会の残り時間あと5分を知らせるアナウンス)

久保 : あまりご発言になってない方、きょうの皆さんのお話を聞いた感想とか、そういうのを聞かせていただいてもいいですか。どなたからでも。

野中 : いいですか。

久保 : はい。

野中 : じゃあ。今回、すごくこの会、楽しみにしてたことが、学生団体のほうの哲縁会で、自分、代表を務めさせていただいて…そちらのほうで活動させていただいているんですけど。

「中村哲先生っていう方がどういった方だったのか」とか、「そこから何を考えるか」ってなった際に、中村哲先生について考えているっていうよりは、「すごく人道的な国際協力をされた方」っていう、象徴的な方の話をしている感じがして、その話をするために中村哲先生を使ってるっていう、利用してるっていう感じがすごくして、どうしたらいいんだろうって、すごく悩んでた際の(この)会だったので、楽しみにしてて。中村哲先生の等身大、福元さんがおっしゃられてみたいに、実態を伝えるって



うことが、ちょっとテコ入れが、テコ入れっていうか、違うやり方が必要なのかなって感じて。

白井 : ちょっといいですか。メディアの立場として、ちょっと発言しておきたいんですけども。とりわけ、やっぱりお亡くなりになった後の2年強ですか、特に亡くなられた直後、急に中村哲、中村哲ってというのが強まった感じがあるんですね。

それはそれで素晴らしいことで、いろいろ伝えられていることもあるし、メディアも散々いろいろ伝えてきたんですけども、今ご指摘のとおり、「一体どういうところがすごいのか」とか、「何を実際にやって、何に共感するのか」というところが、意外とふわっとしてるところがある部分も少なくないと思ったんですよ。ですから、私はメディアとして、改めて、中村さんってどういう方で、逆に、なぜこれほど人々の支持を得るとかというところを、逆説的に取っていくというようなことをして伝えなきゃいけない、というふうに思ったんですね。

たまたま私は、ここにも書いてますけども、メディアの取材者としては、現地取材を初めて日本人としてやっているものですから、そのときに感じたことっていうのが、果たしてどうだったんだろうか。つまり、やっぱり、自分として中村哲っていうのは唯一無二で、単純、シンプルに、本当に目の前の人困っているからただ助ける、そのためにアイデアを考えて、できることをやっていくということで、それがどんどん大きくなっていった結果が用水路だったっていうのが分かったんですね。

じゃあ、そのプロセスっていうのは、本当に変わらない中村さんだったのかっていうところを、個人としても確かめたかったっていうのがあったんです。

びっくりしましたけど、さっき冒頭で福元さんのお話の部分、実は、弊社（KBC）でも相当インタビューさせてもらって、その部分を番組でも使わせてもらってるんですけども、いろいろな方に聞くと、本当にそのとおりだかっていうか、自分が考えていたそのまま、そして、それをさらにいろいろな実態経験を踏まえて大きくなっていく、しかし、ベースは何ら変わっていないっていうところを確認できたんですね。

ですから、そこを、僕は、ささやかな一メディア人としてやったんですけども、今、お亡くなりになって、九州大学のこれ、素晴らしい取り組みであって、こういう中村さんの実態というか、それをどういうふうに伝えていくのかっていうところが、存外難しいなっていう感じがしているところも、正直あるので、そこはファクトを知っている立場として、微力ですが、お力になれるところはなりたいし、いろいろ知恵を出してもらいたいと思うし、そういう質問はどんどんしてもらったほうがいいし。恐らく、具体的な話をいくつも聞くことがいいんでしょうね。先ほどの福元さんのお話なんか、これだけでもあつという間に本になるぐらいのお話でしたし。

久保 : そうでしたね。

白井 : そういうふうなことを思いましたので、最後に申し上げておきたかったんです。

野中 : ありがとうございます。



久保 : いかがですか、(山下さん) ペシャワール会の中で働いて…。

眞 : (グループでの座談の終了を知らせるアナウンス)

福元 : やりかたに正解はないと思いますので、いっぱいいろんな形で私らもやってきました。

野元 : そうなんですか。

福元 : まずは、自分の思ったことをやって。それで人生を踏み外すことがあるかもしれませんが、踏み外した果てが私みたいな人間なので、それでも生きてはいけますから。大丈夫です。

野中 : ありがとうございます。

久保 : 山下さんのお話を伺う時間がなかったですね。

山下 : いえ、大丈夫です。

久保 : 大丈夫ですか。何か一言だけでも。

山下 : 中村先生を語るというか、九大でそういう活動をされていると思うんですけど、やっぱり、現地活動なくして中村哲先生は語れないと思うので。

先生も、以前、おっしゃってたんですけど、現地の活動は、自分一人がやったわけではなくて、現地の事業体の PMS と日本の支援、それから、中村先生、この三つのうちのどれ一つでも欠けたら成し得なかったことだから、先生がなぜ人々から支援、支持されるのかとか、なぜこの事業ができたかっていうのは、現地事業を知ってもらえたら分かるかなというか、伝わってくるものがあるかなと思います。

久保 : 現地のかたがたとのあれですね。

山下 : そうですね。


久保 : タッグを組んでやっていくことの大切さっていうかですかね。どうもありがとうございます。皆さん、本当にいろいろなお話が伺えて、面白い会だったと思います。というか、まだ終わってないですね。


(了)




座談会参加者のインタビューシートより


※座談会参加者に回答してもらった、事前インタビューシートから、回答の一部を抜粋して掲載しています。


	福元満治（ふくもとみつじ） 図書出版石風社代表・パシヤワール会
専門・仕事	1981年に図書出版石風社を創業。中村医師の主要著書その他、ノンフィクションから詩集・絵本などこれまで400冊ほどの書籍を出版。
中村哲先生とあなたとの関わりは？出会った/興味を持ったのはいつですか？	
1987年頃。パシヤワール会には1987年より加わり、会の広報活動を行うとともに中村医師のほぼ全著作のマスメディアへの発表や出版（他社を含め）に関わった。	
中村哲先生の存在は、今のご自身のお仕事、人生にどのような影響を与えましたか？	
物事を判断する時の指針の一つ	
中村哲先生の言葉で、印象に残っているものは？	
近代化とは、中世の牧歌的な迷信が、それらしい科学的な迷信に置き換えられる過程に過ぎない	
中村哲医師のここが面白い、ここを知ってほしい、ここを研究してほしい	
とにかく実践の人です。日本にも世界にも良心的な医師はたくさんいらっしゃいますが、必要とあれば、メスをシャベルや重機にかえて、井戸を掘ったり用水路を建設する医師は稀だと思います。常に現場（自然）に目を向けて、現場が必要なものを模索・思考して実現する人でした。	
中村先生について伝えるとき、大事にしたい・気を付けている事。困ったな・悩ましいなど思っていること	
あまり理想化せずに、等身大の先生が成した本当にすごい実像を伝えたい。	

	山下 隼人（やました はやと） パシヤワール会 PMS 支援室
専門・仕事	1.現地 PMS の会計業務 2.現地 PMS の農業事業連絡担当 3.日本側のイベント窓口(主に写真展・DVD 上映会)4.パシヤワール会のカレンダー製作
中村先生と出会った/興味を持ったのはいつですか？	
大学3年生のときに中村先生と PMS を知る	
中村哲先生の存在は、今のご自身のお仕事、人生にどのような影響を与えましたか？	
PMS の仕事に関わりたいたいと思い、パシヤワール会に就職しました	

	臼井賢一郎（うすいけんいちろう） KBC 九州朝日放送 解説委員長
専門・仕事	報道記者、ドイツ特派員、報道局長など報道系の業務が大半。報道では社会、経済、政治、災害対応などの取材や采配、ドキュメンタリー制作に注力。中村医師の足跡を描いた作品をはじめ、警察の不正捜査のルポ、日本の戦後補償問題、世界遺産沖ノ島の深層などを対象にした。このほか、放送の総合調整を図る編成部長や会社の経営計画を策定する経営企画部長を歴任。2019年からは解説委員長という仕事。ニュースの本質について多角的に説明するのが軸。テレビ、ラジオでコメンテーターを担当。
テレビ朝日系列の特派員としてドイツ・ベルリン支局長を担当。（1998年1月～2001年9月）主なところでEUの東方拡大、共通通貨ユーロの導入、ユーゴ紛争でNATO空爆、ユーゴスラビア市民革命、ドイツの新幹	

線事故などの取材。従軍慰安婦問題の取材で韓国取材多数。(1992年～1997年)
中村哲先生とあなたとの関わりは？出会った/興味を持ったのはいつですか？
1992年の春頃。先生の著書「ペシャワールにて」を読んで。1992年のアフガニスタン、パキスタンの現地取材をきっかけに動向を見守る。
中村哲先生の存在は、今のご自身のお仕事、人生にどのような影響を与えましたか？
本質的に生きるとはどういう生き方か？本質を見る目とは？一貫した生き方とは？上滑りのない生き方とは？そうした問いを思い出してはしているということが影響だと考えている。
中村哲先生の言葉で、印象に残っているものは？
「理屈抜きの善意で支えられている自分を幸せ者だと思った。祈りは見える力として現実化してのみ活路がある。本来の素朴な正義感や思いを理屈の中で変質させてはいけない。それぞれのペシャワールに向けて『良心の実弾』をぶちこめ。そうした支え合いの中に身を失うことによって得る恵みのいかに大きいかを知らねばならぬ」
中村先生について伝えるとき、大事にしたい・気を付けている事。困ったな・悩ましいなと思っていること
中村医師の絶対的な存在感をリスペクトする。英雄視はしない。
(報道関係の方へ) 国際情勢が変動する中、中村哲先生の活動や価値観には変化はあったのでしょうか？*
変化はない。若いころの訪問診療で、時間に制限があり治療を施せなかった住民から投げかけられた恨めしそうな眼差しが持つ意味。困った人がいたら手を差し伸べるという中村医師の骨格の部分に揺らぎはなかった。それがすべてに通底している。

	中西幸大 (なかにし こうだい) 福岡高校1年 ペシャワール班
専門・仕事	法学部に進んで、法律について学びたいと思っています。
中村哲先生とあなたとの関わりは？出会った/興味を持ったのはいつですか？	出会ったのは中学生の頃(4年くらい前)で、興味を持ったのは高校に入ってから(昨年)です。高校で中村哲先生について活動しています。
中村哲先生の言葉で、印象に残っているものは？	この地域、この時代で
どんな方に中村哲先生のことを知ってほしいと思いますか。	高校生などの若い人にも知ってほしい。

	野中 諒 (のなか あき) 九州大学文学部2年 中村哲先生の想いを繋ぐ会/哲縁会
中村哲先生とあなたとの関わりは？出会った/興味を持ったのはいつですか？	2019/12/05。ニュースにて。2020年の夏から、中村哲先生の想いを繋ぐ活動に携わっています。
中村哲先生の存在は、今のご自身のお仕事、人生にどのような影響を与えましたか？	国や所属が違うからといって他人ごとにはいけない、という考え
中村哲先生の言葉で、印象に残っているものは？	(憲法9条に対する発言)「よく理想だけではやっていけない、ちゃんと現実を見なければ、と言いますが、

それこそが“平和ボケ”の最たるものです。それは、マンガと空想の世界でしか人の生死の実感を持ってない、想像力や理想を欠いた人の言うことです。現実を言うなら、武器を持ってしまったら、必ず、人を傷つけ殺すことになるのです。」このアンケートに答えている今が2月24日、ウクライナのことを思うとどうするのか正解なのか、ということに一つ道筋を見出してくださっているように思います。

中村哲医師のここが面白い、ここを知ってほしい、ここを研究してほしい


中村哲先生の著作以外で、先生が活動されていた時期のアフガニスタンのもつ背景や都合をよく知らないの
で、研究していただきたいなと思います。

中村先生について伝えるとき、大事にしたい・気を付けている事。困ったな・悩ましいなと思っていること

中村哲先生エピソードの持つ、人としてのすばらしさという面がどうしても大きくなるので、話す際には現在の状況との結びつきが必要だと思っています。

(高校生・大学生へ) 中村哲先生について、どんなことを知りたい、学びたいですか？*

中村哲先生から見る戦後思想史

	初見かおり (はつみかおり) 九州大学サイエンスコミュニケーター 研究者
専門・仕事	文化人類学。スリランカと南インド。サイエンスコミュニケーション
中村哲先生とあなたとの関わりは？出会った/興味を持ったのはいつですか？	
大学生のとき。 九州大学の中村哲プロジェクトの仕事をたまにサポートさせて頂いています。	
中村哲先生の存在は、今のご自身のお仕事、人生にどのような影響を与えましたか？	
自分が今後「書く仕事」を通して貢献していかなければならない領域を照らしてくれている	
中村哲先生の言葉で、印象に残っているものは？	
「その昔栄光をほこったガンダーラ文明の廃墟に立って、このアフガニスタンでおきた悪夢のような血の狂宴を思うとき、ひとつの感慨に支配される。我々の文明もまた、自壊作用がはじまっていることを感ぜずにはおられない。目をこらせば、人間は自ら作り上げた虚構の崩壊におびえ、虚構に虚構を重ね、事実と自然とを粉飾する。その虚構のはげおちた無残な姿がこの廃墟に蔽として存在する」 (『アフガニスタンの診療所から』)	
中村哲医師のここが面白い、ここを知ってほしい、ここを研究してほしい	
日本人愛	
中村先生について伝えるとき、大事にしたい・気を付けている事。困ったな・悩ましいなと思っていること	
自分が伝えたいことなのか、哲先生が伝えたいことなのか、その二つの境界の見分け方が時にわからなくなってしまうこと。	
その他	中村哲を知るということはどういうことか、まずこの点について若い方たちと討論したい。 「中村哲先生について、みなさんはどんなことを知りたい、学びたいと思っていますか？」 という質問から始めることで、彼らのニーズが明らかになり、それを踏まえた上で対話を進めていけば、自然と善悪についての中村先生のお考えも議論に上がってくると考えます。





久保智之（くぼ ともゆき） 九州大学教授（言語学） 九州大学図書館長

大好きなもの・楽しみは？

山登り

仕事（活動）をしてきた土地は？

中国新疆ウイグル自治区でことばを学んだ

